

■ 社名/業種

BHQ株式会社 / 先端技術

■ 対象地域

全国

■ 上記政策分野における貴社の提供サービス・ノウハウ

- ・国際標準に準拠した**脳の健康管理指標BHQ**を提供（内閣府ImPACTが開発）
- ・具体的には、MRIの画像データやスマートフォンでのアンケート回答から、脳の健康状態をわかりやすい数値で伝え、脳の健康の維持向上につながる情報を提供することが可能
- ・これによって、**With/Afterコロナにおける住民の脳の健康維持を可能にするだけでなく、MaaSや観光、農林水産、3密対策などを脳の健康の視点から共通に評価できる。**

■ 上記サービス・ノウハウを活用した実績（特に地方公共団体との連携実績）

埼玉県に研究開発のご支援をいただき、埼玉県下の病院で試験運用を行った。（この他、BHQコンソーシアムには40社の民間企業様に参加頂いているので様々な視点でのBHQの利用方法のサポート及びアドバイスが可能）

■ 連携することが想定される分野（複数分野を選択している場合は、分野間の連携方法）

<⑦スーパーシティ> <①3密、⑩医療、⑪MaaS、⑮農林水産、⑯観光>  
 脳の健康管理指標であるBHQを全ての共通評価軸とすることで、医療としての**脳のデジタルチェック**だけでなく、**空間、脳に良い移動、食べ物、観光との連携・連結が可能**になる。

■ 上記サービス・ノウハウにより実現できること（想定される効果、解決することが期待される地域課題等）

認知症、脳卒中、鬱病など、現代の日本ではこれらの脳精神疾患の急増が重要な社会問題ですが、新型コロナウイルスによる外出自粛や社会活動の低下、将来に対する不安などにより、私たちの脳と心は今まで以上に疲弊しています。すでに、脳の健康状態を示すBHQは、年齢・肥満・食事・疲労・ストレスなど様々な因子との関係性が明らかになっております。例えば、運動不足のメタボリックシンドロームの方の脳はBHQが低下し、また、仕事などで疲労の蓄積がBHQを低下させること、そこにストレスが加わることでさらに低下することが明らかになっています。低下したBHQは、好奇心の減退や認知機能の低下、さらに仕事への意欲を減らすことなども明らかになっています。さらに、BHQを改善するための研究も数多く進んでいます。

このことからBHQを活用することで、地域の資産を最大限に活かして、住民だけでなく、観光客、さらには世界の人々の脳も心も健康に出来ると考えています。

■ 地域未来構想20の実現を目指す自治体へのメッセージやPR等

それぞれの地域の特徴を生かし、With/Afterコロナにおいて脳が健康になる街づくりを、BHQを用いて実現してみませんか？

例) 住民のライフスタイルを脳まで**デジタル化**することで、With/afterコロナにおいても、**住民にとって無理のない脳の健康維持増進**を実現してもらう。

例) 観光客に対して、**安心安全な観光地**として3密を避けながらも、脳を健康にするような**美術館**や**博物館**、**観光地巡り**を楽しんでもらう。

例) 住民の**食生活と脳の健康**との関係性を明らかにし、そこに地元特産品を絡めて評価することにより、**“より脳に良い地元特産品”**として、日本全国さらには**世界へ輸出**する。

地域未来構想20におけるビジネスの座組

